

# 新聞掲載

奄美新聞 R5.7.14

## 断る「勇気」の大切さ学ぶ

### 海保が薬物乱用防止教室

東城小中

奄美市住用町の東城小中学校（永井孝典校長、児童17人・生徒9人）で13日、奄美海上保安部樋口則一（部長）による中学生を対象にした薬物乱用防止教室があった。教員らも参加する中、薬物の乱用が及ぼす危険性、密輸の実態を学ぶとともに、勧誘を断る「勇気」の大切さを学んだ。

同教室は、文部科学省が推進する薬物乱用防止教育の一環。全国の中学、高校で年1回開催。小学校でも開催に努めることとされており、同校でも児童を対象に、学校薬剤師による教室を別途開催している。

同保安部警備救難課の外国人漁業対策係、井手之上春喜さん（27）と鑑識官、有村泰志さん（30）が薬物乱用について講話。大麻など薬物の種類のほか、▽隠語▽身体への影響▽などを説明。薬物乱用の特徴である「依存症」と「耐性」を説明した。

井手之上さんは薬物乱用の恐ろしさについて、「自身の健康問題とともに、対人関係や家族、社会生活にさまざまな支障、問題を引き起こす」と指摘。勧



誘時に断る勇気を持つへ相談する必要性を呼び掛けた。

ほかにも、2016

年、徳之島町で起きた漁船による大量覚せい剤密輸事件など実例を紹介。薬物密輸、横行する「せどり」の仕組みを、図解を用いてわかりやすく生徒たちに伝えた。

3年の厚歩夢さん（15）は「誘われた時の断り方、薬物の隠語など改めて学べ、ためになり良かった」と話した。

……

生徒たちは薬物乱用の怖さ、断る勇気の大切さを学んだ（13日、奄美市住用町）